

名古屋市で行われた園芸スイレンの除去活動について

小菅 崇之

なごや生物多様性保全活動協議会 水辺の生きもの部会

●はじめに

当協議会では、ため池の外来生物対策事業の一環として、園芸スイレンの除去活動を行いました。園芸スイレンは、ヨーロッパを原産とするセイヨウスイレン (*Nymphaea alba*) などを品種改良して作られた園芸品種の総称です。ため池に観賞目的で放流された園芸スイレンは、春にいち早く生長し、水面全体を覆い尽くすほどに繁茂します。これにより水中が貧酸素状態になり、他の水生生物が生息しづらくなったり、在来水草の生育が阻害されます。



園芸スイレンに着目した理由は、他の外来植物と比較して完全除去の可能性があった点、外来種の現状を理解してもらう上で花が美しくて知名度が高いことが啓発しやすかった点、そして名古屋市内に繁茂するため池が多かった点が挙げられます。

●活動結果

平成 23 年度から 3 か年かけて、市内 110 か所のため池のうち、87 か所のため池を踏査した結果、24 か所のため池で園芸スイレンの生育を確認しました。これらのため池のうち、7 か所で調査および除去活動を行いました。

例えば園芸スイレンが大規模に繁茂する東山新池では、遮光シートを被せることで除去することができました。部分的に繁茂していた四郎曾池では、根茎を抜き取ることで、完全に除去することができました。大規模に繁茂する塚ノ杵池では水面の葉を刈り取りましたが、あまり効果はありませんでした。

また、モニタリングを続けていたデッチョウ池では、大規模に繁茂していた園芸スイレンが腐敗し、全て消失しました。理由はわかりませんが、コウホネ等の水草は残ったため、外来動物の食害ではなく、病的な現象だと思われます。

●除去マニュアルの作成

除去の方法として刈り取り、掘り上げ、遮光シート、池干し、ソウギョの5つがあり、下表のようにそれぞれの方法に一長一短がありました。これらの方法をどのように選ぶかなど、一連の除去活動をまとめた冊子を作成し、なごや生物多様性保全活動協議会のホームページでも公開しております。

http://www.bdnagoya.jp/calendar/pdf/suiren_boujo.pdf

	水性植物への影響	水性動物への影響	水深	土壌の質	費用	労力	労力あたりの除去効果	栄養塩除去効果(推測)
刈取り	小	小	選ばない	選ばない	中	大(年数回)	小	大
掘り上げ	小	小	膝から胴	砂れき質は難あり	中	中(年2回)	中	中
遮光シート	シート設置部分は大	シート設置部分は大	選ばない	選ばない	大	中(設置撤去で年2回)	中	小
池干し	中	中	選ばない	選ばない	大	少	中	中
ソウギョ	大	大	選ばない	選ばない	小	少	大	?